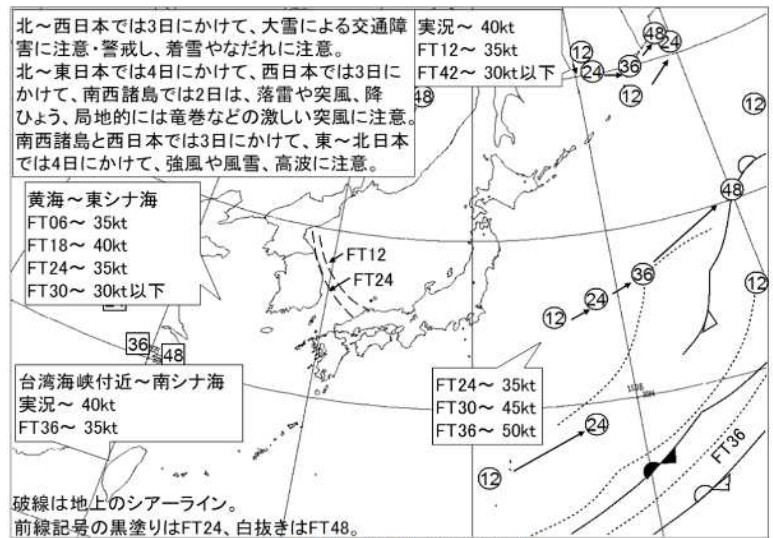


# 短期予報解説資料 2026年1月2日03時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

- ① 寒冷渦が千島近海を北東進。寒冷渦からのびるトラフに対応した気圧の谷が北海道地方を通過中。トラフ直下の稚内では1日21時の高層観測で500hPa -41.5°Cを観測。
- ② 500hPa -36°C以下の寒気を伴うトラフが日本海～朝鮮半島にのびている。
- ③ 日本付近は強い冬型の気圧配置となっており、日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が中国地方を指向。また、伊豆諸島付近から日本の東は気圧の谷となっている。



主要じょう乱解説図

- ④ 北～西日本にかけて、850hPa -6°C以下の寒気に覆われて雪や雨が降っており、北～西日本の日本海側の山地を中心に、3時間で5～10cmの降雪を観測。新潟県安塚では3時までの3時間15cmの降雪。全国的に気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしけている所がある。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の気圧の谷は、ゆっくり南東進して2日朝までには日本の東に進む。北海道地方では2日ははじめは、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項②のトラフは3日朝にかけて本州付近を通過する。日本付近は3日ははじめにかけて強い冬型の気圧配置が継続し、北～西日本は850hPaで-6°C以下の寒気に覆われるが、3日日中以降は華中付近の高気圧が日本の南に張り出し、冬型の気圧配置は西から緩む。JPCZは2日はほとんど停滞し、3日には不明瞭となる。冬型の気圧配置やJPCZ、上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所があり、降雪が強まる所がある。北～西日本日本海側を中心に3日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。なお、トラフが通過する3日朝にかけては、太平洋側の平地でも一時的に降雪が広がる所がある見込み。
- ③ 2日夜にかけて、500hPa 5400m付近のトラフに対応して気圧の谷が東シナ海を南下する。南西諸島では2日は、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 4日ははじめは500hPa 5340m付近のトラフが東～北日本を通過し、4日夜は別のトラフが北日本を通過する。東～北日本では大気の状態が不安定となり、雪の降る所がある。落雷や突風、降ひょうに注意。
- ⑤ 冬型の気圧配置の影響や大陸の高気圧の南縁では気圧の傾きが大きくなり、南西諸島と西日本では3日にかけて、東～北日本では4日にかけて、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。強風や風雪、高波に注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：北陸70、近畿60、東北・中国・九州北部50、関東甲信・東海40、四国20cm。
- ③ 波浪(明日まで)：沖縄・伊豆諸島5、その他広い範囲で3～4m。
- ④ 大潮の時期。北～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

## 5. 全般気象情報発表の有無

「大雪と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。